

前回以降いただいたご意見のポイント

2026年1月30日

製造産業局 宇宙産業課

いただいたご意見を踏まえた対応方針について

- 第5回宇宙産業小委員会でお示しさせていただいた「今後、加速すべき事項」を踏まえて、委員の皆様からいただいたご意見については、以下のとおり、反映させていただいた。
 1. **宇宙戦略基金含む宇宙産業政策の方針**に反映
 2. **宇宙戦略基金 第3期技術開発テーマ**に反映

1. 宇宙戦略基金含む宇宙産業政策の方針に反映

いただいたご意見（括弧内はご意見を反映させていただいた箇所）

- ① ウクライナ危機以降、安全保障の影響で市場の分化が進行し、現在は、同盟国単位で複数の市場が形成される構造が主流になりつつある。どの市場で生き残るかを見極める必要。（資料3 p.9）
- ② 宇宙戦略基金を含む宇宙政策は、あらゆるアイテムが相関性を持つことから、戦略的に整理されていることが望ましく、まず全体の構造を示す「一枚の絵」が必要。（資料3 p.15）
- ③ 宇宙戦略基金の第3期の技術開発テーマについては、これまでの議論が十分に踏まえられており違和感はない。特に、複数回の打上げは、高頻度打上げの実現に向けた正しい布石。（資料3 p.15）
- ④ 宇宙戦略基金の各技術開発テーマ、技術優位と競争優位どちらを優先して評価していくのか。最終目的が早期事業化ならば、技術に新規性はなくともサービス内容やサプライチェーン構築の面で有望な事業者は高く評価する必要もある。（資料5 各テーマ「技術開発実施体制」「審査・評価の観点」）

1. 宇宙戦略基金含む宇宙産業政策の方針に反映

いただいたご意見（括弧内はご意見を反映させていただいた箇所）

- ⑤ 宇宙戦略基金が研究開発支援に限られるという点によって、現場が直面している課題がある。こういった点のうち、射場等のインフラ整備など、民間企業が手を出せない部分に、国が積極的に対処していく政策も必要。（資料3 p.20, 27, 28）
- ⑥ 併せて、年5～6基程度の枠に適応していたサプライチェーンを、高頻度打上げ体制の構築に向け、抜本的に変革していく必要。（資料3 p.21, 22）

2. 宇宙戦略基金 第3期技術開発テーマに反映

いただいたご意見（括弧内はご意見を反映させていただいた箇所）

<1. 民間口ケット打上げ実証加速化>

- ⑦ 文部科学省のSBIR事業もある中で、民間口ケットの技術開発における課題は単純な資金不足ではないように考えられるが、さらに民間口ケットの事業化加速に取り組む正当性・合理性については明確化が必要。（資料6 p.3）
- ⑧ 採択事業者それぞれ6回の実証とする必要はあるのか。回数について適切な分配を審査会で検討できるようにしておいた方がよいのではないか。（資料6 p.4,5）
- ⑨ 採択事業者が、必ずしもが高頻度打上げに向けてキャパシティ拡大等への投資に回すとは限らない。インクリメンタルに複数回打ち上げて終わりとならないよう理想的な使い方の想定を示した方が良い。（資料6 p.7）

2. 宇宙戦略基金 第3期技術開発テーマに反映

いただいたご意見（括弧内はご意見を反映させていただいた箇所）

<2.ロケット飛行運用の効率化・高機能化>

- ⑩ フランスが海上に地上局とすることができます船を持っている。これは、SSA能力につながるものであるため、ロケット飛行運用の効率化・高機能化の観点でも、海上で稼働する地上局を置く選択肢を検討する必要もある。（資料6 p.13）
- ⑪ 宇宙活動法の許可取得にあたっての課題、特にペーパーワークの煩雑さも事業者への障壁となっている等が存在。年間30件の申請を処理できるように、解析の短縮、審査の短縮を目指し、DX等を活用した処理の効率化含め、制度・手続き面も踏まえて取組を進めるのが良い。（資料6 p.13）

2. 宇宙戦略基金 第3期技術開発テーマに反映

いただいたご意見（括弧内はご意見を反映させていただいた箇所）

＜3. 宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速＞

- ⑫ STMやSDAの自律性確保の観点からは、SSAカタログ（軌道上物体が、誰のもので、どのような能力をもっているのか）を所有していることが重要である。技術開発内容の設計にあたっては、カタログあってのアプリケーション、そういう建て付けとすべき。（資料6 p.23）
- ⑬ 目標を事業終了時の社会実装と明示していることはとても良い。ただ、国際調整等で、一事業者のみでは対応できない可能性もあるため、必要に応じた支援もできるようにすべき。（資料6 p.25）
- ⑭ 宇宙活動における課題を明確にルール化するのは時代の趨勢であり、将来のルールを見据えることで民間事業者の開発コスト削減にもつながるため、早期のルール形成が重要。（資料6 p.25）
- ⑮ サイバーセキュリティにかかる基盤の開発・実証について、より限定された範囲のサイバーセキュリティについて取り扱うように見えてしまわないような項目名を工夫すると良い。（資料6 p.23）

2. 宇宙戦略基金 第3期技術開発テーマに反映

いただいたご意見（括弧内はご意見を反映させていただいた箇所）

＜4. デジタル技術を前提とした衛星開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化の技術開発・実証＞

- ⑯ 想定する成果を出すために、開発・製造プロセスの刷新及び機能高度化を実現できる十分な知見を有している者が参画し、かつ、成果を実際の競争力強化まで繋げる意思のある者を後押しできるよう、工夫することが重要。（資料6 p.36）

＜5. 宇宙実証機会の拡大に資する衛星を活用した軌道上実証の低コスト・高頻度化技術の開発実証＞

- ⑰ 軌道上実証サービスを展開する事業者は、自社のコンステレーション事業等を有している場合が多い。事業として、どのように実現していくのか運用の仕方を工夫する必要ある。（資料6 p.45）